

●主な活動の記録 (1月~3月)

令和2年1月11日(土) 活動始め 矢田山遊びの森

参加21名。新年の挨拶の後、夕刻に新年会が予定されているため、活動は午前中のみ。大半は、今後の環境出前講座でのクラフト指導用材料として、竹の輪切り作業。数名は過日除伐・玉切りをしておいたホダ木用原木の搬出や器具の手入れ。女性達は、甘酒づくりとに分かれて活動。中休みには、しょうがを入れた温かい甘酒を味わい、体を温めて活動を再開。昼前に終了。

短時間ながら開催された理事会で、退任を表明されていた鈴木理事長に代わって、奥理事を新理事長に選出。終わりの会で、新旧理事長の挨拶があった。

最後に、理事長より、平武一枝さんの死去の報告あり、皆で冥福を祈って黙祷。

夕刻、西大寺駅前小間蔵 hana に15名が参集し、新年会を開催。新理事長挨拶の後、牛鍋を囲んで、和気あいあいと2時間強、酒も進み大いに楽しんだ。



クラフト材料づくり



甘酒を味わう



新年会

1月25日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加15名、内一名新人(マウンテンバイククラブのメンバー)朝会で、新理事長奥の決意表明の後、全員で3月に予定されているモミジ谷での植樹祭に備えて地拵え作業。草刈り・灌木並びに枯損木の除伐を手分けしてやり屋前に終了。午後は、数名で午前中に処理した木の一部子供交流館のストーブの薪に使うべく搬出。他は、次週に実施の明治小学校環境出前講座に向けての、材料・道具の取り備え。一部はシイタケ銀行の整備。

終了後、新旧理事長の引継ぎを兼ねての理事会を開催。

- ・今年度の助成事業の取り組みと担当決め
- ・新規会員の取り込み方法
- ・広く参加者を募っての親しめる活動について
- ・理事長交代の関係先への挨拶と連絡等につき話し合った。



新理事長挨拶



地拵え



枯損木の処理



クラフト準備

1月28日(火) 環境出前講座 明治小学校

同校5年生3クラス75名。正規の授業時間を割いて、各組約一時間毎に実施。クラブ紹介の後、まず10分間程光合成を中心に森の働きにつき説明。クラスによっては、挙手をしたものから気が付いたことを発表させ、これに解説を加えた。次いでクラフト指導。先にジージーゼミづくり、順を追って手順を説明しながらつくらせこの間、参加したスタッフ5名が随時手助けをしたが、中には手の遅い子もあり、意外と時間を取られて、もう一つ予定しておいた作品、サイズの異なる竹の輪切りを組合わせての置物づくりには時間が取れず、皆にそれぞれ選んでもらった材料を持ち帰ってもらい、各自家で作ってもらうこととした。については持参した見本を参考に順に見せた。

2月8日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加18名。全員で、3月のモミジ谷での植樹祭に向けての整備作業。枯損木並びに日陰となりそうな雑木を除伐し、整理。結構大きなナラ枯れと、その予備軍もあり、安全のためロープ掛けをし、慎重に作業を進めた。伐倒木は、大きなものは、子供交流館ストーブ用の薪に、細めものはホダ木用として搬出。また追分までの遊歩道両脇の草刈を数名で実施。植栽予定地で整備の終わった所から、植栽スポットの位置決めをし、杭の打ち込みをした。終了後、理事会で今年度の「緑の募金」公募事業の取り組みにつき検討。モミジ谷で、本年に引き続き、その延長線上で整備継続のための助成を申請することし、担当の引継ぎを兼ねて奥村と小野両理事で申請を進めることとし、その内容につき話合った。



==作業風景==

2月22日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

小雨が降る中、17名が参集。午前中、男性は来月14日開催のモミジ谷での植樹祭に向けての最終整備。第一スポットでは、場倒木の整理と薪用の材を搬出。第二スポットにおいては、日陰になるような常緑の高木の除伐、沿道の草刈り作業を実施。

昼前には、雨も強まり作業の目途もほぼついたので、引き上げる。

午後は、予定していたシイタケ植菌を取りやめ、子ども交流館内でチェンソーの整備講習会を小野理事指導の下で実施。

一方、女性は、料理体験館で昼過ぎまで奥理事長持ち込みの芋を使っのこんにやく作り。灰汁抜きをし、固まるのを待つ玉に。この間男性3名が、火起こし他で補助についた。出来上がったばかりを、小分けにしてもらい各自持ち帰る。そのまま刺身こんにやくとしても味わうことが出来る由。



整備作業

こんにやく作り

チェンソー整備

3月7日～8日 「世界遺産の吉野山で森林環境整備活動」 —森林ボランティア活動のリーダー養成を図る—
「緑と水の森林ファンド」公募事業

奈良県森林ボランティア連絡協議会主催による本研修に当クラブより13名が参加、他にいこま里山クラブ・木の子村・景観ボランティア明日香・その他一般も加わり、計21名が参加し、コロナウイルス問題で開催が危ぶまれたが、吉野山中千本周辺にて実施。7日は20数年のヒノキ林(民有地)で間伐作業を、今回の研修での一番の目標である安全確実なチェンソーを使つての伐倒等(伐倒・枝払い・玉切り・搬出)をプロの指導を受けながら、一人ずつ交代で作業をした。ロープ上げ等の遊びを取り入れながら、また昼休みには、目立てを教わった。午後はプロの枝打ち作業を実演していただき、元気な数名が一本梯子を使用し枝打ちを体験した。夕方には、吉野山保勝会の福井理事長に、吉野山桜についての講演で、千年以上前から存在し、西行法師がここの山桜をこよなく愛した逸話などを交えて聴いた。その後は、参加者のみで、交流会を行った。

8日は、生憎朝から雨であったが、樹木医の中野さんに山桜植栽地を案内していただき、毎年小学校の児童が卒業の際、自分で種から育てた苗を植樹することや、奥千本に千本までの植樹を進めているお話を聴いた。その後苗畑を視察した。この後、吉野林業について坂本森林組合長から講演をいただいた。

最後に、間伐材の利活用の一環として、ベンチ作り体験をした。コーススレッド打ちに苦慮しながらも、皆は楽しく熱心に取り組んでいた。悪天候に関わらず、ケガもなくすべての予定した研修を修了出来た。



ロープ架け



受け口づくり



風倒木処理



目立て実習



講演会



ベンチ作り



作品と共に



参加者一同

3月14日(土) “モミジ谷植樹祭” 「緑の募金」公募事業

雨にも関わらず、早くから熱心な家族連れ的一般参加者24名とクラブ員18名が参集。定刻に開かれた開会式で、理事長より植樹祭の趣旨説明の後、予報では雨は午後には上がるとのことなので、午前と午後の予定を入れ替えて実施。

まず、コースター作りに取り掛かる。リョウブを小口切りにし、切り口の手触りを良くするため、サンダーや紙やすりでこする。小さなお子さんには、予め電気カッターで切れ目を入れてから手ノコで切り離してしてもらった。次いでシイタケ植菌の駒打ち、希望者は原木ごと持ち帰り。この後、シイタケ銀行に数年前に伏せこんでいたものに幾つか生えていたシイタケ狩り。本数に限りがあり、一家族数本に限定。この頃、雨も小降りとなったので、弁当を貰って早目の昼食。

正午過ぎ、3班に分かれて植栽地に向かう。荒れた雑木林を約半年かけて整備した所にイロハカエデ各班10本を、家族ごとに順次植えていき、支柱を打ち込み、杉ひもで結え、最後に子供たちが思い思いに書いた樹名板を付けて、全員で記念写真。子ども交流館に戻り、一般参加者を見送りいったん解散。クラブ員は、昨春芝生広場の

”平成の森”の植栽樹 7 本が、枯れているのを新しい苗木で補植し、全ての予定を終了。



コースター作り



シイタケの駒打ち



植栽作業風景



全員で

3月28日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

矢田山にも春が来た！

世界中が”新型コロナウイルス”で大騒ぎになっているにも関わらず、季節の移り変わりは地球温暖化の影響を受けながらも「泰然」として、矢田山も桜にツツジ、コブシと花々が咲き競っています。昨年植樹した「平成の森」の若桜も花を咲かせています。

この日、朝方の雨で参加者の出足が鈍ったか参加者は 13 名。作業は当初予定していた「みんなの森」の下草刈りは足元の状況が悪いので変更し、情報館西側のベンチ周りの安全確保のため枯損木処理を行った。

午後には、次の林野庁助成事業に応募すべく整備候補地の調査を行った。矢田山自然公園、小笹の辻休憩所から、頂上に向かうとすぐに管理道と分れた遊歩道がある。この遊歩道を進むと再び管理道と合流する。この合流点近くから西方向へやぶの中を 250mほど登っていくと以前は国土地理院の三等三角点が置かれていた。地図には「矢田山 331・76」と記されている。次期事業は、ここを始点に頂上展望台までの間の環境整備を視野に調査を行った。

会員の動きでは、このところ若者(O・ジュニアに続いて、Y・ジュニア他)の参加を得て心強い状況が続いている。機器の整備を終えて 15 時、全員ケガもなく無事終礼、解散した。コロナを忘れた楽しい一日を過ごすことが出来た。感謝！

理事会報告、4月11日予定の緑の募金街頭募金活動はコロナのため中止、又恒例の「花見の食事会」も同様に中止し、折を見て形を変えて実施を検討する。林野庁の事業の候補地(上記実地調査の)を県庁にその可否を打診する。



枯損木処理



==花の競演==



(若 桜)

＝訃 報＝

平武一枝様におかれては、兼ねてから病氣療養中のところ、昨年 12 月 23 日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。